

電化社 吉高 Shinsuke 社長、外務省 伊藤直樹さん、遺族の皆さん、遺族代表の KevinNicholls さん、今日の event を実現するために大変ご尽力くださった Asami さん、そして Agape の代表者方々、まずは皆様に、本日参加させてくださいましたことを、お礼申し上げますと共に、融和の精神のもと、この美しい慰^{いれい}霊碑を建てられた吉高社長のお心に、感謝の意を表します。

本日は日本と英国の間に起こり、約 70 年前に終了した戦争後の、融和の精神を称える日です。戦争で命を失われた方々、青海町にて捕虜として生活された方々の忍耐や強さを記憶に残していくために、そして、この融和の行動を心に響く意義深いものとした寛容さを称えるため、今日ここに、私たちは集まりました。過去の痛みを抱えながらもこの日を迎えられた元捕虜とご家族の方々に、私たちは最大の敬意を払うべきでしょう。また、電化社の寛大さは、慰霊碑と土地を提供された点のみでなく、遺族や仲間の方々が自由にこられる様にされたことにも現れています。これは、ご列席の各国代表の方々も賛辞^おを惜しまれないことと存じます。戦争時代の敵意が、私

たちの国々の通常の関係からかけ離れていることを、忘れてはいけません。それどころか、^{せい}正反対です。二度と繰り返してはいけない異常な状態でした。本日、私たちが集まっている意義のひとつは、共に働き協力し合えばし合うほど、私たちの関係が、より良く強力になっている事実を改めて思いおこすことです。私たちはお互いに協力しあって生きています。世界中で、日本人、米国人、**New Zealand** 人、**Australia** 人と英国人が、様々な分野で国際協力と相互支援を通じて、よりよい世界を築いています。現在の緊密な関係を思うと、かつて青海町にいた捕虜の方々の^{くなん}苦難が、とても遠いことのように感じられます。しかし、彼らの犠牲は、決して忘れられるものではありません。吉高社長には、それを記憶に留めるひとつの機会をつくって頂き、心からお礼申し上げます。歴史に、未来を形づくらせてはいけません。改めて、皆様の融和と許しの精神に心より感謝します。

UNCLASSIFIED

歴史の^{あやま}過ちを認めながらも、心を開き前を向いて歩いてこそ、より安定した幸せな世界を築くこととなるのです。

UNCLASSIFIED